

行事案内 (2001年7月～2001年12月)

所定の方法にて、行事名・住所・氏名・電話番号・年齢を、博物館までご連絡ください。
開催日の一か月前から受付開始で、定員に達し次第、締め切らせていただきます。



第3号

Dinosaurs 恐竜博物館ニュース 第3号(第2巻第1号) 発行日:平成13年7月7日発行
発行所:福井県立恐竜博物館 〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11 電話:0779-8888700
企画・編集:(代表)小島敏弘 印刷:株式会社エクスワン FAX:0779-8887000 E-mail:info@dinosaur.pref.fukui.jp

恐竜博物館ニュース

第3号

2001.7.7

福井県立恐竜博物館



特別講演会

(申し込み不要)

日時/9月2日(日) 14:00～15:30

講師/フィリップ・カリー博士

(ロイヤル・ティレル古生物学博物館)

演題/「肉食恐竜の狩り」

地学指導者実技講座

対象:教師および社会教育関係指導者など 20名
申込:往復ハガキ、E-mailにて

野外実習

日時/8月3日(金) 13:30～15:30

講師/後藤道治

場所/恐竜化石発掘現場

博物館の楽しみ方、活用の仕方(館内実習)

日時/11月18日(日) 14:00～15:30

講師/小島敏弘



コンピュータ教室

実習室にて 対象:4歳～小3親子 20組
申込:往復ハガキ、E-mailにて

恐竜をかこう

日時/7月22日(日) 13:30～15:30

担当者/千秋利弘

年賀状をつくろう

日時/12月2日(日) 13:30～15:30

担当者/千秋利弘

恐竜ふれあい教室

対象:4歳～小3親子 40組
申込:往復ハガキ、E-mailにて

恐竜折り紙教室

日時/7月15日(日) 13:30～15:30

講師/木村哲夫(折り紙作家)

恐竜造形教室

日時/8月11日(土) 13:30～15:30

講師/荒木一成(恐竜造形作家)

恐竜画教室

日時/9月23日(日・祝日) 13:30～15:30

講師/山本 匠(恐竜画家)

こども自然教室

対象:小4～中3 40名 申込:往復ハガキ、E-mailにて

押し葉標本をつくろう

日時/7月28日(土) 13:30～15:30

講師/矢部 淳

恐竜化石を発掘しよう

日時/8月19日(日) 13:30～15:30

講師/館長ほか当館職員

場所/恐竜化石発掘現場

微化石を観察しよう

日時/9月15日(土・祝日) 13:30～15:30

講師/後藤道治

拡大してみよう

日時/10月27日(土) 13:30～15:30

講師/佐野晋一

骨を調べよう

日時/12月8日(土) 13:30～15:30

講師/一島啓人



野外観察会

対象:一般 40名 申込:往復ハガキ、E-mailにて

福井県高浜町周辺の中生層

期日/11月3日(土・祝日)

内容/福井県高浜町周辺に分布する中生代の地層を観察する

場所/福井県高浜町

(千秋利弘)

編集後記

あのブラック・ビューティやアルバートサウルスなど世界1級品の標本が、6月にカナダから恐竜博物館にやってきました。ティレル博物館スタッフの指導を受けながら展示しましたが、どの標本も迫力のあるすばらしいもので、そのすごさに圧倒されます。

開館1周年を記念したこの特別展は、開館後初めて開催されるもので、1年以上も前から準備を進めてきました。10月31日まで開催されますが、カナダ大使館やアルバータ州政府の協力によるカナダフェアも開かれ、会期中はカナダ一色となります。是非とも恐竜博物館へお越しください。(小島敏弘)

博物館セミナー 基礎コース

「地球生物の進化史」

申込:電話、FAX、E-mailにて

陸の古生物 「アジアの恐竜」

日時/8月12日(日) 14:00～15:30

講師/東 洋一

対象/一般 90名

陸の古生物 「新生代に栄えた植物」

日時/9月15日(土・祝日) 14:00～15:30

講師/矢部 淳

対象/一般 90名

海の古生物 「海の環境と無脊椎動物の進化」

日時/11月24日(土) 14:00～15:30

講師/柄沢宏明(瑞浪市化石博物館)

対象/一般 90名

実習講座 大型化石研究法 - 野外編 -

日時/8月5日(日) 13:30～15:30

講師/小林快次

対象/一般 20名 場所/恐竜化石発掘現場

実習講座 地質調査法 - 野外編 -

日時/9月9日(日) 13:30～15:30

講師/野田芳和、宮田和周

対象/一般 20名 場所/勝山市周辺の手取層

実習講座 地質調査法 - 室内編 -

日時/10月13日(土) 13:30～15:30

講師/野田芳和

対象/一般 20名

実習講座 植物化石研究法

日時/11月11日(日) 13:30～15:30

講師/寺田和雄

対象/一般 20名

実習講座 微化石研究法

日時/12月23日(日) 14:00～15:30

講師/野田芳和

対象/一般 20名

ダイノメイト (後援会より)

福井恐竜博物館後援会のダイノメイト会員は、個人会員266名、家族会員80名になりました。恐竜に興味のある方の入会を待っています。

今年度の楽しい行事として、7月21日に福井県和泉村で化石採集会、7月22日には恐竜博物館での特別展観覧の集いを行います。また、8月21日から25日には、中国(上海、杭州、天台、麗水)恐竜ツアーを企画しています。その様子は、9月発行予定の会報で紹介しますので、ご期待ください。

ダイノメイト会員申し込み先

〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11

特定非営利活動法人 福井恐竜博物館後援会

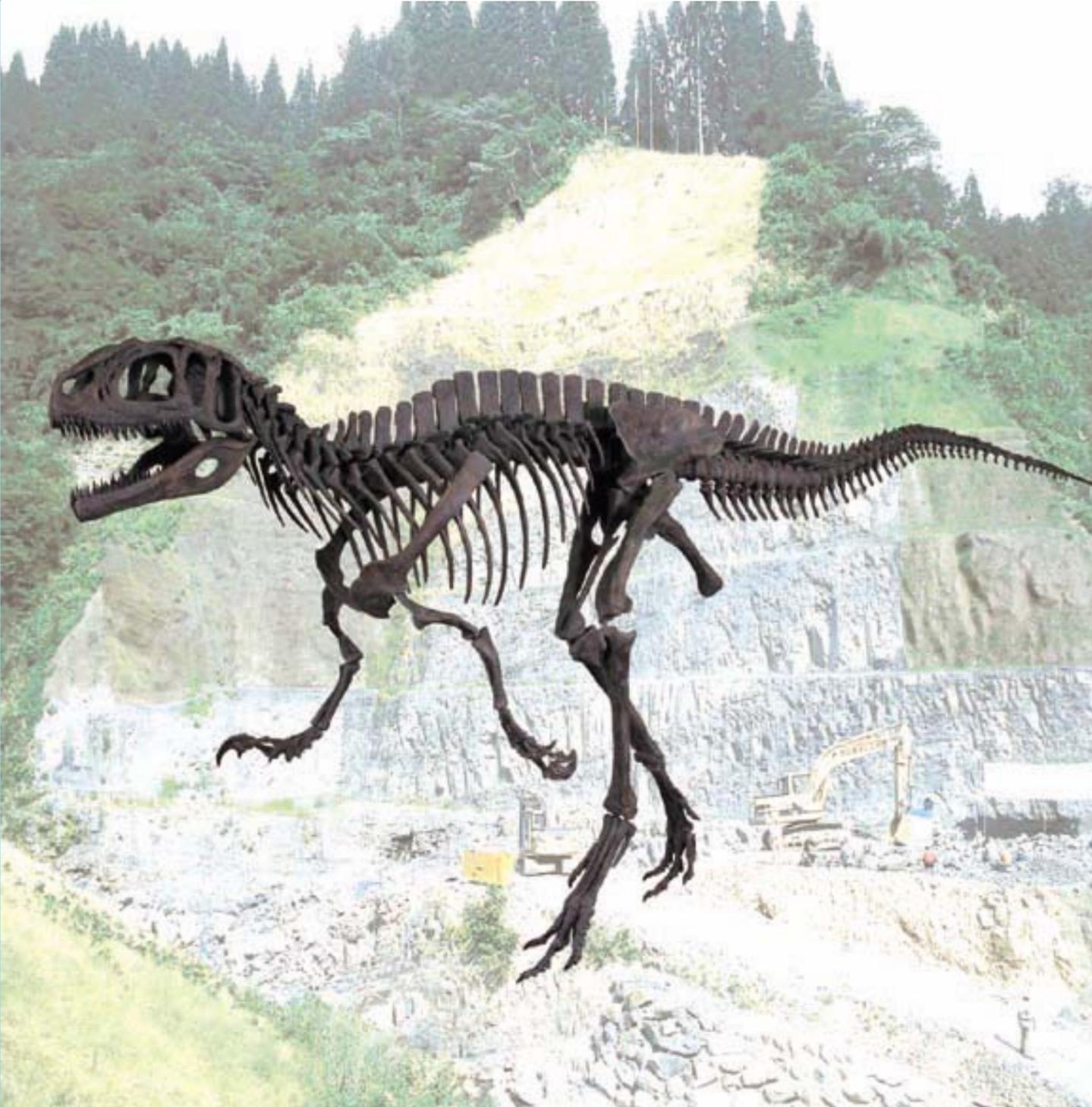
TEL&FAX 0779-88-8730

年会費 個人会員 2,000円、家族会員 3,500円



特集: 開館1周年記念特別展「ロイヤル・ティレル古生物学博物館の恐竜たち」

目次 インターネット博覧会「恐竜王国」...2-3 特集: 開館1周年記念特別展のみどころ...4-5 研究ノート/博物館バックヤード...6
展示標本紹介(グリバニア・白亜紀のハス化石)/教育普及活動.....7 行事案内/ダイノメイト/編集後記.....8



「恐竜王国」ーインターネット博覧会福井県パビリオンー

2000年12月31日～2001年12月31日



バーチャルリアリティ世界の恐竜たち



今流行のITは、あらゆる情報を仮想現実化してしまう魔力を持っており、現代高度情報化社会での寵児といえます。発信側もアクセス側も、特定の対象を意識せずに成り立ってしまう無限の広がりを持たせることが可能な、恐るべきPR媒体と受け止めてよいでしょう。

インパク（インターネット博覧会）は、こうした電子情報媒体の特性をいかに有効に駆使して自己宣伝できるか、官民共通ネットワークで競い合おうという国の施策です。経費がついてくる事業ですから、IT啓蒙～推進政策の具体化の一局面と捕らえて然るべきでしょう。

福井県としては、恐竜王国の威信にかけても「Dinosaur Museum」を売り出す絶好のチャンスですから、県立恐竜博物館のスタッフがそのコンテンツ作りに精を出しました。経費は支給されるとはいえ、制作期間や情報量の関係もあって“all about dinosaur”というわけにはいきませんので、動画や音声の取り込みも押さえ気味の原案ができました。

頁をめぐっていただければ一目瞭然ですが、CRTサイズ内に表現されるバーチャル恐竜像や関連解説、紹介の画面ですから、肝心の“巨大さ”とか“質”といった観点からするとやや期待に添えきれないところがあるかも知れません。恐竜の生活や環境復元には3DCG（立体コンピュータ・グラフィックス）の手法が絶対に有利であ

ることはいうまでもなく、学術面に先がけて大型映画やビデオ番組のようなエンターテインメントの場にはかなり多くの作品が出廻っています。

博物館という情報公開施設は、いうまでもなく“実物”主義を軸に据えたビジュアル・ハンズ・オン型五感体験を売り物にするのが正道といえます。けれども、展示の広がりや特色を要領よく把握できる情報ガイドシステムを伴っていないければ、その活用度は著しく低下することになるのが当然です。

インパク型の、どちらかといえば宣伝・誘客を念頭に置いた恐竜バーチャルリアリティ構想は、いわばイントロダクションあるいはインビテーション志向であり、かつより学術要素に踏み込んだエデュテインメント（娯楽）性の強いコンテンツとなります。ここで興味を惹かれた方は、機会を見てきつと来館されるに違いないと期待しています。

もう少し深く博物館本来の情報開示システムとしてのノードの在り方を考えると、インパクでのコンテンツ期間が終了してからも、より充実した恐竜のバーチャル・リアリティ世界を発信し続けることは大変意義のあることです。電子恐竜図鑑にしたり、恐竜生態系復元プロセスの紹介内容であったり、あるいは欲張れば恐竜一体の復元過程の完全ドキュメントシリーズがあったら、などと考えるのは当然でしょう。

インパク出展をきっかけにして、恐竜博物館では実物体験と疑似体験とが調和した、近代的博物館情報提供機関として一層の発展を遂げたいと願っています。

福井県立恐竜博物館館長 **濱田 隆士**



年12月31日から平成13年12月31日まで開催されており、政府や各地方自治体をはじめ、様々な民間企業、そして個人の方など特色ある約430のパビリオン（ホームページ）がこの博覧会に参加しています。これらのパビリオンにはそれぞれ特色のあるテーマがあり、閲覧できる全ての方が参加できるような工夫のある情報発信もあります。博覧会会場のホームページでは、アクセスの多いパビリオンのランキングやテーマが表示されており、それぞれのパビリオンの人気や概要を知ることができます。

福井県は平成元年から恐竜化石の発掘や学術調査を続けており、「恐竜化石」が県のイメージの一つとなっています。そこで、福井県は「恐竜王国」（<http://www.inpaku-fukui.com/>）という名のパビリオンでインターネット博覧会に参加しています。「恐竜王国」では恐竜に関する最新の情報や、福井県の恐竜化石発掘・調査による学術的な情報などを国内外に分かりやすく紹介しています。パビリオン「恐竜王国」は「生命の歴史」、「ダイノライブラリー」、「恐竜化石発掘」、そして「コミュニケーション」の4つの大きなセクションから構成されています。

「生命の歴史」では、地球に生まれた生命が進化していく様子をダイジェストで分かりやすく紹介しています。特に地球の誕生から恐竜の繁栄・絶滅まで、美しい復元画などを使った10篇の進化のストーリーを楽しむことができます。

GO! [http:// www.inpaku-fukui.com/](http://www.inpaku-fukui.com/)

「ダイノライブラリー」では、恐竜をもっとよく知りたい人のために、系統樹からも化石発掘地域からも恐竜を検索して調べることができます。このセクションでは、世界中で発掘された20種の恐竜について紹介しており、それぞれの恐竜に見られる様々な特徴や推定される恐竜たちの生態について紹介しています。

「恐竜化石発掘」では、化石の発掘から全身骨格の復元までの豊富な内容となっています。このセクションには、世界で行なわれている発掘の様子を紹介する「世界の恐竜発掘」、福井県勝山市北谷町の恐竜化石発掘現場を360度のパノラマムービーで紹介する「福井の恐竜発掘現場」、また、福井県の恐竜化石発掘のバーチャル体験や発掘された化石を調べていく「バーチャル発掘体験」などのページがあります。また6月からは、日本の主な恐竜化石とその産出地について紹介する「日本の恐竜」と、フクイラプトルの骨格を復元していく「骨格パズル・上級編」が新しく登場しています。

「コミュニケーション」には、毎月全問正解者の中から、抽選で景品がもらえる「恐竜クイズ」や、恐竜に関するテーマについて参加する投票式アンケートの「恐竜ネットインタビュー」、恐竜の折り紙を紹介した「恐竜お楽しみ」など、楽しく遊べるページがあります。



平成12年12月31日から平成13年6月14日まで、福井県の「恐竜王国」には延べ約13万5千件のアクセスがありました。5月には約3万2千件のアクセス数があり、5月の月間パナーヒットカウントで429のパビリオンの中で30位にランクされています。また、6月1日のパナーヒットカウントでは19位と、次第に「恐竜王国」にアクセスする方が増えてきました。

「恐竜王国」はさらに多くの方々を楽しめるように、工夫を凝らした新しいページを追加させていく予定です。さあ、あなたもインターネットにアクセスして、恐竜の魅力あふれるパビリオン「恐竜王国」で楽しんでください。（宮田和周）

特集

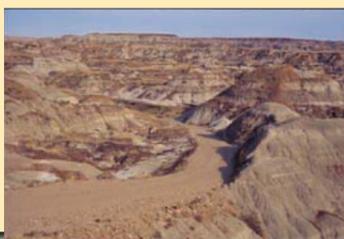
ロイヤル・ティレル 古生物学博物館の恐竜たち

現在、福井県立恐竜博物館で開催されている特別展「ロイヤル・ティレル古生物学博物館の恐竜たち」は、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館が所蔵しているアルバータ州の恐竜化石やその他の化石を展示しています。

アルバータ州の恐竜

アルバータ州は、世界で最も恐竜化石が多く発見されている地域で、現在までに70種類を超える恐竜が発見されています。ロイヤル・ティレル古生物学博物館の近くには、世界有数の恐竜化石産地の州立恐竜公園があります。この地域は乾燥した気候で、恐竜公園には広大な荒地（バッドランド）が広がっています。今までにこの恐竜公園だけで、アルバータ州全体の半分の恐竜の種類、および約500体分の恐竜骨格が発掘されています。公園を流れるレッドディア川や大雨による鉄砲水によってバッドランドは日々削られていて、現在でもいたるところから恐竜化石が次々と発見されています。これだけ多くの恐竜化石を産出している事は以前から知られており、1979年には化石産地としては史上初めて世界遺産として指定されました。

アルバータ州の恐竜は、白亜紀後期の恐竜で、獣脚類、ヨロイ竜類、堅頭竜類、鳥脚類、角竜類があります。発見されている恐竜化石の中には保存が非常によいものがあり、今回の展示されているティラノサウルス・レックス（「ブラック・ビューティ」）のように、骨が間接した（つながった）状態で恐竜骨格化石が発見され「死の壮絶さ」がうかがえます。さらに、恐竜墓場のように1種類の恐竜（例えば、パキリノサウルスやケントロサウルス）が、たった一ヶ所から何十体も固まって出てきたりします。このような層を、ボーンベッド（骨化石包含層）と呼び、集団で行動していた事を意味します。また、ハドロサウルス科恐竜の赤ちゃんや巣の化石も見つかっていて、この恐竜は産んだ卵を「温め」、「子育て」をしていました。このように、アルバータ州は、恐竜というものがどのような生物であったかという謎をひも解く鍵になる恐竜産地なのです。



上：アルバータ州立恐竜公園
下：ロイヤル・ティレル古生物学博物館

特別展のみどころ

この特別展は、大きく「水生の動物たち」「草食の恐竜たち」「肉食の恐竜たち」の3つのゾーンに別れています。「水生の動物たち」のゾーンでは、海や淡水の恐竜以外の動物たちが展示されています。また、「草食の恐竜たち」のゾーンでは、「草食」という形でヨロイ竜類、鳥脚類、角竜類恐竜の本物の頭骨・骨格化石などの展示をし、それらを通して恐竜たちの「生活」が見えるようになっています。「肉食の恐竜たち」のゾーンでは、多様性をもった肉食恐竜（獣脚類恐竜）が展示してあります。展示してある恐竜をいくつか紹介しましょう。

パキリノサウルスの全身骨格とボーンベッド



この全身骨格化石は、新種のパキリノサウルスです。パキリノサウルスは、他の角竜類と同じで、大きい頭には襟飾りのような構造を持った頭の骨の一部が発達しています。トリケラトプスのような角は存在していませんが、鼻の上にはゴツゴツした骨が発達しています。この全身骨格と一緒に展示されているのが、パキリノサウルスのボーンベッド（骨化石包含層）の一部です。これが発見された場所には、十数体の骨格が発見されており、当時は数百mにもわたって遺骸（骨格）が集まったことでしょう。これは、この恐竜が集団行動をして渡り歩いていた際に川によって流されたため、それだけ多くの恐竜が一度に死んだものと思われています。その他の理由として、火事、病気、台風（洪水）などが考えられます。



ボーンベッド



ティラノサウルス・レックス

これはティラノサウルスの骨格で、骨の色が黒いため、通称「ブラック・ビューティ」と呼ばれています。化石化する際、地下水に含まれるマンガンを骨に染み込んだため色が黒くなったのです。発見者は二人の高校生で、釣りをしていたけれどもあまり釣れなかったため化石を探したところ、偶然にもこの化石を発見しました。この恐竜の歯は、肉をかみ切るために、その他の肉食恐竜の歯と同様、ノコギリのようなギザギザ（セレーション：鋸歯）を持っています。一本一本の歯の大きさは大きく、バナナほどの太さがあり、かむ力は非常に強かったと考えられています。ティラノサウルス・レックスはアルバータ州の白亜紀後期の恐竜の中で最大のものでした。

アルバートサウルス

アルバートサウルスは、ティラノサウルス・レックスと近縁な関係にあり、同じティラノサウルス科に属しています。この恐竜は、ティラノサウルスよりも、500万年ほど古い時代に生きていました。ティラノサウルスに比べ体の構造は軽くできており、ハドロサウルス科の恐竜を襲って食べることに特殊化していたと考えられています。アルバートサウルスの12体の部分骨格がボーンベッドとして発見されていて、この恐竜は、オオカミやライオンのように群れで移動して狩りをしたことを物語っています。



ストウルティオミムス

この骨格は、ドラムヘラーから南東に約20km離れた、ホースシュー・キャニオン層という地層から見つかった骨格で、日本で初めて展示されるものです。ストウルティオミムスは、オルニトミムス科に属する恐竜です。オルニトミムス科の恐竜は、長い足を持ち速く走る事ができました。体重を軽量化するため骨格は軽くできています。薄く軽い骨構造であるため、このストウルティオミムスの骨格のように良く保存されている事は稀で、非常に貴重な標本であるといえます。また、長い首の先についている頭には歯がなく、鳥のような「クチバシ」を持っていました。オルニトミムス類の恐竜は、モンゴル国や中国からも発見されており、白亜紀後期以前にアジアから北米へ移動したことが考えられています。

特別展「ロイヤル・ティレル古生物学博物館の恐竜たち」では、恐竜たちの骨格が「陳列」してあるだけでなく、恐竜たちのストーリーが探索でき、恐竜の世界に入っていけるような展示になっています。ここで紹介した他にも恐竜に関連したいろいろな化石があるので探してみてください。（小林快次）

会 期：2001.7.7(土)～10.31(水)
休 館 日：毎週月曜日(ただし8/13・9/24・10/8は開館)
おおよび9/25・10/9の火曜日
開館時間：午前9時から午後5時まで
(7/7～8/31は午後6時まで延長)

恐竜博物館はその名が示すように、「恐竜」を中心とした博物館ですが、恐竜以外にも様々な絶滅生物（古生物）の研究を行っています。私が研究しているのは、化石のクジラです。クジラが現われたのは、恐竜が絶滅したあとの新生代という時代になってからですが、その起源は人間よりもずっと昔、今から5000万年以上も前のことです。最古のクジラの化石はインドの5500万年前の地層から見つっていますが、その頃のクジラは、化石の元素分析と堆積物の研究から、淡水と海水を行ったり来たりしていたことがわかっています。おそらく今のアシカやアザラシのように、時々陸にも上がったことでしょう。ヒマラヤセタス、パキセタス、アンブロセタスと呼ばれるクジラたちがそのような仲間です。それよりも前の段階のクジラの祖先は、4本のしっかりした足で陸を歩いていたのです。

水生生活に適応するにつれて、クジラの足が小さくなっていく過程は化石からよくわかります。大腿骨が小さくなり、骨盤が背骨から離れるなど、段階的に変化しています。約4000万年前に生きていたパシロサウルス（クジラなのにサウルスという恐竜のような名前がついています）は、体長が15mもあったにもかかわらず、その足は50cmに満たないものでした。陸上で体重を支えることは不可能だったでしょうが、小さいながらも大腿骨や脛骨、腓骨、指骨など、すべての要素が備わっていました。ちなみに、現生のクジラでは、腰のあたりに単純



ヌマタネズミイルカの全身骨格
北海道沼田町、幌似太刀別川の河岸で発見。前期鮮新世（およそ450万年）の地層から

な棒状の骨盤（痕跡的な大腿骨ができる種類もいます）が体の中に埋まっているだけです。



コセミクジラの骨盤（タイルは5cm角。体長：5m弱）

クジラは頭の骨も非常に変わっています。現在のクジラの鼻の孔は頭のてっぺんにあります。潮を吹いている姿が有名ですが、水中で呼吸を止めていたクジラが水面に出て勢いよく呼吸をする時に、息に含まれる粘液や水蒸気、そして鼻の孔の周りの海水も一緒に吹き上げるのが「クジラの潮吹き」です。そして鼻の孔の位置ばかりでなく、頭骨全体もかなり変化しています。頭頂骨は頭の側面に移動して、前頭骨と後頭骨がほとんど接触するくらいにまでなっており、耳の骨も頭骨から分離して、耳骨として独立した骨となっています。3500万年くらい前まで生きていた原始クジラという種類では、頭骨の変化はそれほどでもなかったのですが、今生きている歯クジラとヒゲクジラの祖先が現われた頃から、徐々に変化が始まります。

日本では漸新世後期以降の海成層から、たくさんのクジラ化石が見つかっていて、私自身も漸新世後期から更新世までのクジラを研究対象にしています。今は山の中でも、大昔に海だった地層からは、貝殻の化石と一緒にクジラも出てくることがあります。山の中からクジラが出てくるなんて不思議ですね。ひょっとしたら、陸にいた頃のことをなつかしんでいるのかもしれない。（一島啓人）

展示標本紹介

グリパニア

（グリパニアの一種：Grypania sp.）

グリパニアは、巻いたりボンのような形を持つ、炭質物のフィルムからできている化石です。知られている最古の、肉眼で見える大きさを持つ化石は約21億年前のグリパニアです。バクテリアに比べて著しく大きいことから、最古の核を持つ生物（真核生物）の化石ではないかと考えられています。

グリパニアは、2階「生命の歴史」展示の最初の部分、「生命の誕生」コーナーに展示されています。約40億年前に生命が誕生してから、グリパニアが出現するまでには長い時間がかかっています。初期の地球には自由酸素（O₂）はほとんど存在していませんでした。大規模な縞状鉄鉱層の堆積や赤色土壌の出現などの証拠から、約25～22億年前ごろに酸素のある地球表面環境への変化が起こったと考えられています。核を持つ生物の出現は、この表面環境の変化と関連しているのかもしれませんが。（佐野晋一）



白亜紀のハス化石

（ネルンビウム オリエンタリス：Nelumbium orientalis Matsuo）

展示室1階、「恐竜時代の日本」の一角に展示されているこの標本は、県内の池田町土合に分布する、白亜紀後期（約7000万年前）の足羽累層という地層から発見された「ハス」の葉の化石です。学名は現生の蓮（*Nelumbo nucifera*）に似たという意味と、東洋（Orient）という意に由来します。恐竜が多数発見されている手取層群の時代（白亜紀前期）は裸子植物 スギやソテツ、イチヨウの仲間が森の中心で、花をつける（被子）植物がようやく世に現れた頃です。しかし、手取層群からはまだ被子植物が発見されていないので、この化石は、県内では最も古く確実な被子植物の記録といえます。当時の蓮も大きく美しい花をつけたのでしょうか？

この標本は金沢大学所蔵の基準標本です。当館では、足羽累層や県内の同じ時代の地層から発見された植物の化石を多数保管・展示しています。「恐竜時代の日本」では、このような化石に基づいて当時の森林の様子を再現していて、手取層群の時代の森林との違いなども知ることができます。（矢部 淳）

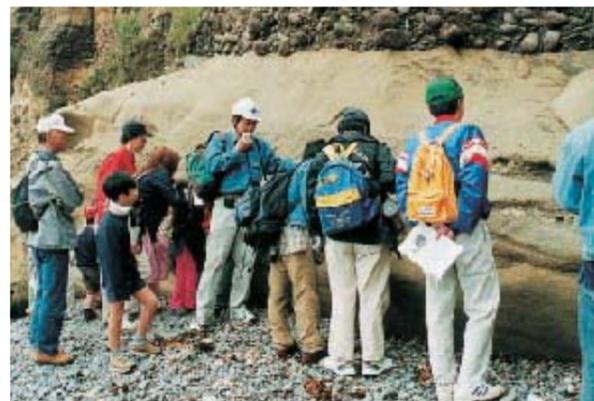


教育普及活動

野外観察会

日時：5月3日（木）9：00～16：30

開館以来2回目の野外観察会で、今回は福井県の北部に位置する三國町や芦原町の越前海岸、北潟湖周辺に分布する新生代の地層の見学会を実施しました。JR福井駅をバスで出発し、東尋坊や越前松島周辺では海岸に発達しているさまざまな堆積構造や地層の観察、昼食後は北潟湖周辺に分布する古砂丘堆積物、火山灰層などの観察や化石の採集を行いました。25名の参加者の中には、ホタテガイなどのすばらしい貝化石を採集した人も多く、成果のある楽しい観察会となりました。



博物館セミナー 実習講座

日時：6月24日（日）13：30～15：30

博物館セミナーは、「地球生物の進化史」の共通テーマで、陸の古生物、海の古生物、実習講座の内容で毎月1回開催しています。今回は、大型化石研究法について室内実習を行ったところ、17名の参加者がありました。化石研究の手順やクリーニング、同定、登録など大型の貝化石が密集したブロックを各自クリーニングしながら、また、化石クリーニング室でエアスクライバーを使っての実習も取り入れ、基礎となる技術を学んでいきました。（小島敏弘）



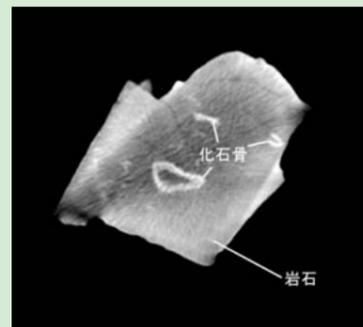
博物館バックヤード

CTスキャナー

（コンピュータ断層撮影装置）

博物館1階の「恐竜のからだづくり」のコーナーには、恐竜の脳（脳が入っていたところ）が展示してあります。こうした中を見ることのできない恐竜の頭蓋骨の脳をどうやって調べるのでしょうか。それには、CTスキャナーという機械が使われます。CTスキャナーは、主に医療用として使われ、エックス線を利用してヒトの脳や体の内部を見ることのできるものです。

恐竜博物館にも、このCTスキャナーが備わっています。壊さないで中の様子がわからない貴重な化石でも、この機械を使うと中の様子を手にとるように知ることができます。また、クリーニングする前の岩石も、化石がその中にどのように入っているのか前もって知ることができ、大切な化石を慎重に取り出すことができるのです。



CTスキャナーは、ガントリーというエックス線を出す本体と操作をするコンピュータとで構成されています。CTスキャナーでは、化石などの資料を厚さ2mmの薄い板状にスライスしたような画像を撮影します。撮影した画像は別のコンピュータに保存し、処理することで、三次元の立体画像と

することもできます。

今までわからなかった化石の内部などをCTスキャナーで調べることができるようになり、恐竜に限らずさまざまな分野で研究が進んでいます。恐竜博物館でもCTスキャナーを活用した研究を進めていきたいと考えています。（野田芳和）

